

境塚遺跡 第2回現地説明会

阿賀野川の川湊と幹線道路に築かれた鎌倉～室町時代の町

3 出土遺物

○鎌倉～室町時代の遺物 エリアごとに特徴が認められます。町場エリアでは井戸から大量の土師質土器皿・小皿が出土し、宴会儀礼や祭祀が行われたものと考えられます。流通エリアでは笹神古窯跡産の瓷器系陶器のほか、瓦器の輪花火鉢や風炉といった流通品が多く認められます。居館エリアでは中国天目や白磁碗などの貴重な舶載品が特徴的です。

○縄文時代晩期後葉の遺物 複合口縁を持つ深鉢形土器や浮線網縄文が施された甕形土器などが出土しました。石器は石鏃や磨石などがありますが、出土量はごくわずかです。



井戸から出土した土師質土器 皿・小皿
(町場エリア)



瓦器輪花火鉢・風炉
(流通エリア)



中国天目・瀬戸美濃天目・白磁碗
(居館エリア)



縄文時代晩期後葉の深鉢形土器



縄文時代晩期後葉の甕形土器



境塚遺跡と周辺の中世遺跡の位置



出土した備蓄銭 (穴の直径約30cm)

備蓄銭とは、大量の銭貨を壺などに入れて地中に埋めたものです。今回見つかった備蓄銭は、直径20cmの木製の曲げ物にきれいに納められています。約100枚の銭貨に紐を通した「緡銭(びんせん)」と呼ばれる形を留めており、今のところ11本見つかっています。

1 遺跡の概要

境塚遺跡(阿賀野市百津字境塚地内)の発掘調査は、国道49号阿賀野バイパス建設に伴い平成27年4月から行っています。調査面積は約9,200㎡です。遺跡は旧阿賀野川によって形成された自然堤防上に立地し、標高は約7mです。

遺跡の主な時代は、鎌倉～室町時代(13世紀後半～15世紀)と縄文時代晩期後葉(約2,500年前)です。鎌倉～室町時代では当時の幹線道路の周囲から掘立柱建物や方形竪穴遺構などが見つかりました。また、銭貨を土中に埋めた備蓄銭を発見しました。平成21・26・27年度の3か年にわたる調査を総合すると、南北に360m以上伸びる幅6mの幹線道路を基軸として、東西約400mの幅で町場エリア・流通エリア・居館エリアの存在が想定されます。備蓄銭の出土は、貨幣経済を基盤とした流通が行われていたことをうかがわせます。縄文時代晩期後葉では河川から炭化物集中範囲などが見つかり、河川における縄文人の生業活動の痕跡と考えられます。

平成27年10月3日(土)

国土交通省 北陸地方整備局 新潟国道事務所
公益財団法人 新潟県埋蔵文化財調査事業団
株式会社 ノガミ